

小規模多機能型居宅介護 和が家「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 パートナーステーション	代表者	小原 陽一	法人・ 事業所 の特徴	高齢者が慣れ親しんだ地域での生活が継続できるよう、人と人が助け合い、1日1日が高齢者の生活にとって質・量ともに適切な支援が受けられ、また個人の尊厳ある生活が確保されていくことを目指します。 自然豊かな春光台に位置する地域性を活かし、毎日の生活の中で自然を感じながら、優しく穏やかな時間が共有できるよう共に過ごして行きたいと考えます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 和が家	管理者	伊藤慎吾		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	4人	人	1人	1人	人	5人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	介護記録で時間の短縮ができたことで更に介護の質の向上に向けて利用者様のADL維持、認知症J19:BC47+J19:BC47の予防をする(レクリエーションの強化)	ケアカルテを活用し時間の短縮や情報の収集が早くできたことやレクリエーション活動も継続して行うことができた。	記録の電子化で業務の省力化が実現した。更なるAIの活用や介護ロボの導入で介護の補助が可能になり担い手不足の解消になるとよい。	電子カルテやAIをさらに活用し業務の活用化を図り良質なサービスを提供していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	職員、利用者様の感染予防に継続して留意し、ご家族や知人と会える機会を継続していく	感染状況に応じて、面会や外出外泊が可能になり、継続して触れ合える機会を設ける事ができた。	入居者や家族にとって触れ合える機会は良い事だと思います。ウイズコロナ等、感染症の考え方の変化(規制緩和)で事業所における「ウェルビーイング」(健康・幸福・福祉)の充実に向けての努力を期待します。	家族知人と触れ合える機会の更なる充実を図り感染症対策を適切に考慮していく。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナ感染状況をみながら、地域の皆さんに関心をもって頂けるように可能な限り町内会の企画に参加していく。	町内会のお祭りや敬老会の参加や地域の子供たちと触れ合える機会が数回あり少しずつ関わりが増えてきた。輪が家カフェも数回開催することができた。	地域と触れ合いが増えてきたこと。輪が家カフェでの開催ができる事は地域にとって重要な役割と感じています。地域には会合や組織、施設のもようしなど資源が多くありますので状況をみながら多く関わられる様に応援したいです。	地域のイベントや春光台未来プロジェクト・旭川の企画に今後も継続して参加していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	小規模多機能型居宅介護和が家の利用者様と共に地域活動に参加していく。	清掃活動やイベントに参加したりドライブにも行くことや馴染みの床屋や婦人会に参加される方もいて地域に出られる方が増えてきた。	会社全体で地域に向けた活動をされていると思います。利用者さんは周囲から認められることで喜びを感じる事ができるのでその機会を多く提供することを望みます。	地域のイベントや交流活動への積極的な参加や自分の居場所として感じられる環境作りを提供していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	会議で頂いたご意見をいかし地域に沿った活動や報告をしていく。	会議での貴重な意見を活かし活動していくようにできた。介護の啓発活動もでき地域に知って頂けるよう取り組めた。	通常業務に加えて新たな活動をする事は一番大変なことだと思います。ヤングケアラー問題など介護分野には課題が山積みしている。情報発信の場として活動を望みたい。	情報の共有とともに課題に向けて運営推進会議にて取り組んでいく。
F. 事業所の防災・災害対策	今後も年に2回の防災、災害対策を行い、地域の方に知って頂く。	火災の避難訓練の際、地震・停電も想定し訓練できた。	訓練では避難誘導時間が短縮されるなど効果が出ていたと思います。火災だけでなく不審者への対応や予防アイテムを備える必要性を感じます。	避難訓練の成果を踏まえつつ緊急事態においても的確かつ安全に対応できるように取り組んでいく。また、訓練のフィードバックを受け適切な改善点を見つけていく。